

京都社会事業財団 評議員の役を 受けさせて頂いた理由



社会福祉法人 京都社会事業財団
評議員 三浦賢佑

巻頭言

突如人類に襲いかかられたように感じたCOVID-19によるコロナ禍は、人類とウイルスの戦いの歴史から見るとほんのわずかなエピソードであったかもしれませんが、その渦中では死に至らされたり大迷惑を受けた人も多いと思います。

何かのきっかけで普通の生活から離れた人々のためのセーフティネットは、幅広く地域に根ざした連携が望ましいと思います。社会福祉法人 京都社会事業財団はこのような理念を持たれた山下元会長はじめ諸先輩によって形造られてきたものと理解しています。

わが身を振り返ると、父親が肺結核で7回の全身麻酔手術に耐え手術入院以外は家庭療養で13年間に及ぶ闘病生活に終止符を打てたのは私が大学に入学した時でした。振り返ってみるとわれわれの家族もさきどく生き残ったという思いです。父の肺結核症は当時京大胸部研究所といわれていたところで終始お世話になり、この研究所出身の山下政行先生、矢崎次郎先生はじめ多くの先生方が京都桂病院に来ておられます。一方医学学生だった当時、医学部医

局制度はインターン制度で無給医師を作り、医局制度の頂上にたつ教授は医局員の赴任先を含め人事を独断に行い、意のままに医局を運営していたように思えました。そのような医療医学体制に反対して、私たちの学年100人中1人を除いて全員が1年間抗議の留年をして世間に訴え続け、その結果1年留年して昭和43年9月に京都大学医学部を卒業しました。行動を共にしたのは京大では我々の前後の3学年生で、少なくとも300人弱の学生と他大学も巻き込んだ（あるいは巻き込まれた）運動であったと思います。その是非は歴史的な評価が必要と思いますが、現在の研修医制度で出身大学の枠に縛られず生活資金も支給されて自由な研修が可能になったことや、数十人規模の医局からその何分の一に縮小専門化された現大学の制度は、我々が望んだものに近いもののように思えます。

卒業後は宇治の80病床の小規模のユニチカ中央病院を経て京大ウイルス研究所の鈴木司助教授に師事しました。当時は輸血後肝炎と言っていたB型肝炎のウイルスの研究を行

い、患者さんの血清を集めて研究の材料にさせて頂きました。ちなみに輸血後肝炎ウイルスは私が研究を始める2年前に発見され、診断治療が日常臨床で認められるようになったのが今から15年ほど前で約40年の月日を要したことになります。私が京大、京都桂病院で働いた時期にほとんど重なります。当時京都桂病院は呼吸器疾患が全入院患者の9割以上を占め、肺結核の手術数は京都では大学を抜いて一番多かったと思います。京都桂病院にも手術後輸血肝炎患者さんは多くおられました。週に一回採血パックをさげて研究用血清をいただきに来るのが仕事でした。そのような経緯のなかで京都桂病院の内容を徐々に知ると、広大な敷地に施設が点在している一大医療福祉ゾーンであると私の目には映りました。山下元会長たちが築かれた、京都桂病院は私にとって理想郷でした。このゾーンの一角で仕事が出来たらいいなと思っていました。

ウイルス研究所に在籍していた時、内野治人教授に拾われるように就職した京大病院で15年間肝臓の臨床と研究をやった後、赴任病院とし

ては、歯向かった経過もある国立、地方自治体立病院には興味もありませんでしたので、大学の弟子3人と京都桂病院に赴任してきました。それから30年勤務して今では私の理想に掲げた法人は全人間全医療を實踐する施設群として発展し、全国にも類を見ない多くの特徴ある福祉系の施設も充実し、兄弟関係で結びついたものになっています。この体制を維持して時代の要請にこたえるように発展してほしいと想い描いてきましたので、野口雅滋会長から当法人の評議員就任の打診を受けたとき、二つ返事でお役を受諾させて頂きました。

誇りと義務の念をもって任にあたらせて頂いています。

令和4年 大暑の候
81歳は半寿

経歴

- 三浦診療所 院長 内科医師
- 京都大学医学部総合診療科 臨床教授
- 日本園芸協会認定園芸師
- つばき園・もの木学園後援会 会長
- 社会福祉法人 径福社 理事

各施設の 令和3年度 事業報告

西陣病院



事業総括 新型コロナウイルス感染症の蔓延が続く中でも、各職員が、懸命に総力を挙げて取り組んでいましたが、患者数および診療報酬収入が減少し、年度前半は、経営上の目標を達成できない月が続きました。しかし、クラスターを出さないこと、患者さんが少なくても丁寧に対応すること、透析に関しては、体制を広報することを実践した結果、年度後半は好調になりました。

重点項目

- 1 地域のニーズに合ったケアミックス病院としての診療体制を維持する。
- 2 近隣・かかりつけ・開業医さん・救急を由来とする患者さんの受入れを徹底する。
- 3 多職種によるチーム医療を充実させる。

〒602-8319 京都市上京区五辻通六軒町西入溝前町1035
TEL: (075) 461-8800 FAX: (075) 461-5514
URL: https://www.nishijinhp.com
E-mail: nisijin@nisijin.net

京都桂病院



事業総括 高度急性期・急性期の医療とがん医療とそれらを支える救急医療の充実を図りました。COVID-19による受診患者抑制下、重点医療機関として入院加療を行い「試練を乗り越え新たなステージへ」の行動方針に従い、新入院患者増加を目指しました。救急車の年間搬入件数は大幅に増加し、新入院患者数は1か月1,041人でした。また行政より補助金が支給されました。

重点項目

- 1 COVID-19では対応病床16床とし、年間入院数221名死亡9名であった。
- 2 年間ロボット手術186件、腹腔鏡手術1,016件、胸腔鏡手術185件がん診療施行した。
- 3 救急車搬入件数は年間4,770台に増加し、新棟のER、ICU、SCU、HCU運営準備を行った。

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町17番地
TEL: (075) 391-5811 FAX: (075) 381-4224
URL: https://www.katsura.com
E-mail: info@katsura.com

にしがも透析クリニック



事業総括 今年度は年間透析延回数が前年を上回りましたが、通院患者の高齢化が進んでおり、継続して自宅からの通院患者確保や、にしがも舟山庵入居者の受け入れ、協力依頼等の増患対策が必要です。今後も泌尿器科(透析)の診療を通じ、にしがも透析クリニックの合理的で健全な診療、運営を継続し、地域医療に貢献する所存です。

重点項目

- 1 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策
- 2 新規・維持透析患者の確保と高齢透析患者や糖尿病性腎症患者への取り組み
- 3 透析導入実施医療機関、腎臓内科医や糖尿病専門医、在宅医療に携わる医師や看護師との連携

〒603-8471 京都市北区大宮西山ノ前町3番地の1
TEL: (075) 495-1131 FAX: (075) 495-1144
URL: https://www.nishigamo-hdc.jp
E-mail: nishigamo-hdc@room.ocn.ne.jp

京都からすま病院



事業総括 2020年12月に発生した新型コロナウイルス感染症による院内クラスターは、2021年6月迄の長きに亘って当院に大きな痛手(感染エリアのゾーニング管理に伴う稼働病床の減少)を与えました。さらに長年勤務の整形外科医の後任が決まらないまま異動が決まり、手術や入院患者さんを制限したことで回復基調の経営状況が一気に悪化しました。

重点項目

- 1 感染対策: 院内クラスター発生以降、幹部職員による週一の感染対策会議の実施と新型コロナウイルスに特化したICTで改善に取り組んだ。
- 2 医療安全: 本部から指導者を派遣していただき各種マニュアルの整備と医療安全責任者の育成に取り組んだ。
- 3 質改善進捗管理: 各部署策定の目標を、PDCAサイクルに則って改善に取り組んだ。

〒603-8142 京都市北区小山北上総町14
TEL: (075) 491-8559 FAX: (075) 492-4304
URL: https://www.karasuma-hp.com
E-mail: info@karasuma-hp.com

二条保育園

事業総括

令和3年度は昨年同様、新型コロナ対策に追われた年度となりました。特に年度終盤の第6波の感染拡大は2歳児クラス・5歳児クラス・3歳児クラスで感染があり、1月27日から2月3日まで全面休園となりました。



夕々のお泊り保育

重点項目

- 1 新型コロナウイルス感染防止対策の実施継続
- 2 ICTの活用
- 3 行事や園外活動の中止を余儀なくされたが、年長児23名が笑顔で巣立ってくれたのは保育者として救われた思いであった

〒604-8404 京都市中京区聚楽廻東町7番地
TEL: (075) 841-0139 FAX: (075) 841-6019
URL: <http://www.nijo-hoikuen.sakura.ne.jp>

北野保育園

事業総括

令和3年度は昨年度同様、新型コロナ対策を継続実施していましたが、令和4年1月中旬頃から全国的に第6波の感染拡大の勢いがすさまじく、当園は2月6日以降、園児・職員の陽性が多発し2月7日～2月14日、2月23日～3月1日の間、全面休園となり、又、3月9日～3月13日は部分休園となりました。



重点項目

- 1 新型コロナ感染防止の実施継続。
- 2 新型コロナにより保育活動が制限されたが、工夫をして保育展開をした。
- 3 空調設備機器の全面入替をした。

〒602-8318 京都市上京区七本松通五辻上ル老松町103-60
TEL: (075) 462-6491 FAX: (075) 462-9128
URL: <http://www.kyoto-kitanohoikuen.jp/>

京都桂川園

事業総括

新型コロナウイルス感染症拡大は、通所・短期入所部門の休業や利用控えによる実績低下や職員育成に欠かさない研修機会の減少や未実施に至る影響を及ぼしました。基本方針に掲げた「責任と役割の明確化、組織力の向上」も不十分でしたが、多職種連携による事業自主点検の精度は高めることができたことと評価しています。引き続き職員の自律性を伸ばす組織づくりを目指します。



コロナ禍での百歳のお祝い
内閣総理大臣のお祝い状 (代読)

重点項目

- 1 新型コロナウイルス感染症への継続的な対応強化
- 2 人材確保・定着、安定した経営
- 3 地域包括支援
- 4 高齢事務センターとの協同
- 5 空調システムの全面入れ替え工事 (京都市)



感染拡大防止研修

〒615-8033 京都市西京区下津林東大般若町32番地
TEL: (075) 391-1675(代) FAX: (075) 391-1640
URL: <http://katsuragawaen.com/>
E-mail: info@katsuragawaen.com

京都厚生園

事業総括

経営改善・業務継続計画の検討、介護報酬及び運営基準改定に伴う対応等に取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症の発生により、特別養護老人ホームと通所介護事業が大きな影響を受けました。それでも職員全員が目の前の困難に立ち向かい、知恵を出し合い、創意工夫に努め、何ができるかを考え、協働できた1年でした。



パーティーション越しの乾杯

重点項目

- 1 経営改善・事業の継続
- 2 人材確保と育成
- 3 ケア体制とケアの標準化
- 4 地域包括ケア体制のための地域住民・関係者との連携の強化
- 5 法人内高齢(障がい)4施設の一元化に向けての協働

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町46番地
TEL: (075) 391-7870 FAX: (075) 392-0191
URL: <http://www.kyotokouseien.com/>
E-mail: kswf@kyotokouseien.com

松陽児童館

事業総括

「おかえりなさいが待っている☆松陽児童館」をスローガンに関わった全ての人の心のよりどころとなるような児童館を目指しました。また新型コロナウイルスの感染拡大防止を図りながら新たな支援方法を模索し地域のすべての子どもたちの健やかな育ちと子育て家庭の支援に努めました。学童クラブは今後も人数増加が続くため、安心安全を確保できるよう環境整備を行います。



重点項目

- 1 子育て支援
- 2 遊びを通じた子どもたちの健全育成
- 3 地域との連携
- 4 職員研修

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町51-28
TEL: (075) 392-6311 FAX: (075) 392-6312
URL: <http://www.kyo-yancha.ne.jp/syouyou/index.html>
E-mail: syouyou@kyo-yancha.ne.jp

昭和保育園

事業総括

年間を通じて新型コロナウイルス感染対策を徹底していましたが、2月、3月に園内で感染が複数回あり、通常保育や行事についても多くの手段を考えさせられた一年となりました。そんな環境の中、子どもたちはしっかり伸び伸びと成長してくれ、そんな姿に保育者の喜びもひとしおの年でもありました。定員を130人にし、保育標準時間の変更をしました。



重点項目

- 1 コロナ禍で制限が多いので、思いっきり戸外遊びを中心にした保育を進めました。
- 2 若手職員を中心に、ICTを活発に利用しました。
- 3 暑さ対策のために園庭にUVテントを取り付けました。

〒605-0994 京都市東山区鞆町七条下ル一橋宮ノ内町15-4
TEL: (075) 561-0091 FAX: (075) 561-0743
URL: <https://www.showahoikuen.net>
E-mail: showa.renga@showahoikuen.net

ライフ・イン京都

事業総括

令和3年度も幸いなことにご入居者が新型コロナウイルス感染症に罹患されることなく1年を過ごすことができましたが、長引く感染対策で生活全般に活気がみられなかったことが課題として残りました。逆風のなかでも入居推進は順調に進み、数年ぶりに新規入居が逝去の方の数を上回り入居者数が増加に転じました。原状回復工事で支出がふくらむこととなりましたが、将来への投資として今後も経費削減に工夫しながら進めてまいります。



35周年記念

重点項目

- 1 新規入居の推進: 31名新規入居
- 2 介護報酬改定に伴う対応: BCP案作成
- 3 施設の改修及び設備、備品の更新: 本館内階段壁面塗り替え、ケアセンターベッド更新
- 4 開設35周年記念行事: 物故者追悼会、記念ミニコンサート

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町46-2
TEL: (075) 381-1870 FAX: (075) 381-1899
URL: <https://lifeinkyoto.or.jp>
E-mail: kswf@lifeinkyoto.or.jp

にしがも舟山庵

事業総括

令和3年度は組織力の向上を主軸とし、部門責任者の会議の発足、ICTの環境作り等、新しい取り組みに着手しました。また、新型コロナウイルス感染症への対応では初めて陽性者発生(職員)を経験しましたが、最短で終息できました。長期化する面会制限については5通りの方法を設定し、柔軟に運用しました。財政面では次年度に繋がる課題を確認しました。



コロナ禍の外出 青空と賀茂川

重点項目

- 1 ワクチン接種等における医療連携、感染対策等における職員間協力
- 2 制約の多い施設生活下におけるレクリエーションや施設行事開催の工夫
- 3 非常勤職員を含む学びの機会の拡大、ICTの検討開始
- 4 新加算の算定開始、看取り介護力向上からの加算増

〒603-8471 京都市北区大宮西山ノ前町3-1
TEL: (075) 495-1121 FAX: (075) 495-1161
URL: <https://funayamaan.com/>
E-mail: funayamaan@room.ocn.ne.jp

クラスター下での経験

法人内施設からの支援に感謝して

2022年7月20日に始まった当施設の新型コロナウイルス感染は、7月28日にはご入居者7名、職員7名になり、その後も複数の感染経路によりご入居者や職員に拡大しました。

施設では直ちに特別体制を敷き、現場統括を担う施設長補佐を中心に看護、介護、相談、栄養、事務等の各部門が大きく通常業務の枠を超え、ご入居者への対応や至急物品の手配、固定配置を維持するための職員の手配等、感染拡大防止への体制づくりに動きました。

7月26日には、専門家（医師と感染管理認定看護師）によるサポートチームの来訪を受け、にしがも舟山庵の現場における実地指導によりさらに体制を強化しました。

そのような中、会長による高齢四施設連携の方針の下、法人内施設からも実にさまざまご支援を頂きました。

最初期には担当理事からの激励、7月28日には京都厚生園園長の来訪（状況の聞き取り、施設長メンバーへの詳細報告等）、翌日には多数のゴミ箱も持参していただきました。7月29日には京都桂川園から施設長が後方支援、7月31日にはライフ・イン京都から介護職員さんが応援に駆けつけ、現場対応していただきました。8月1日にはPCR検体の運搬に回ってくださったことも大助かりでした。隣接のにしがも透析クリニックは、感染性の廃棄ゴミを一手に引き受けてくださり、西陣病院は業者搬入が間に合わない休日にも、携帯用アルコールセットや水分補給ゼリーを多数提供していただきました。その他にも施設長ラインでは「今日は陽性者が出ていないので動けそう！」等、それぞれ自施設の感染状況や職員のやりくりを抱えながらのお申し出が続きました。

そして、このような数々のご支援を経て、8月29日をもちまして、ご入居者13名、職員17名、合計30名に及ぶ感染の拡がりはひとまず終息いたしました。

この間の多大なるご支援、その経験は、単体施設の不安を払拭し、目の前の困難を乗り越えることができるという大切な経験となりました。最後に、皆様からのご支援を経験したにしがも舟山庵職員の感想をご紹介します、感謝に代えさせていただきます。

法人内で助けてもらえる環境があることが、本当に力になった

法人の介護職員さんの応援に、ユニットの中に安堵感が広がった



職員の食事・休憩室に早変わりした感染ゾーンにある浴室横の脱衣室。ほんの一瞬でも…“ほっと”！



イエローゾーンのリビングにまとめた必要物品。探す手間を省き、職員の最短の動線を確認。



感染ユニットに置いたホワイトボード。情報の見える化。感染職員の解除（復帰）日が記載された続きには「おかえり!!」の添え書き。

数々の暖かいご支援に、職員一同、心より感謝申し上げます。

ももの木学園

事業総括

コロナ感染対策を厳重に行いながら、子どもへの支援と施設運営を継続しました。開設時に小中学生だった子どもが年長になり、それぞれの状態に応じた自立の形を模索しました。石坂前園長が児童心理治療施設における治療構造について理論を確立して全国に発信し好評を得ています。



重点項目

- 1 定員を維持して事業を継続する
- 2 生活—心理—医療—教育の専門性が有機的につながるオーダーメイドのケアを行う
- 3 子どもに応じた自立の形を模索する

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町51-28
TEL: (075) 381-3699 FAX: (075) 393-4316
E-mail: momonoki@sage.ocn.ne.jp

つばさ園

事業総括

コロナ対策で、行事ができなかったこと、「話し合い」の実践ができなかったこと、職員の対面の会議ができなかったことの影響は大きいものでした。都道府県推進計画については、ももの木学園と共に、定員は減らさず、大きな本体改修工事はせずに、計画後期に臨むということで一致しました。被虐待児への対応は、理論構築を進め、実践も積み重ね、子どもも職員も大きく変化成長しました。



花火

重点項目

- 1 都道府県社会的養育推進計画の検討
- 2 被虐待児童への支援
- 3 自立支援
- 4 里親推進
- 5 地域小規模児童養護施設の支援の充実

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町51-28
TEL: (075) 381-3650 FAX: (075) 393-4316
E-mail: tsubasa@rondo.ocn.ne.jp

check

ホームページリニューアルについて

当法人のホームページがリニューアルされました。各施設が地域で提供している公益的な取り組み等を紹介しています。

ぜひご覧ください URL <https://kyoto-swf.com>



check

ひだまり保育園 病児保育について

保護者が当法人施設にお勤めであればご利用いただけます。

- 【対象】 生後3カ月～小学校就学まで
 - 【定員】 1名（先着順）
 - 【料金】 1,320円（食事、おやつ、寝具、おむつ等込み）
 - 【受付】 前日17:30までにお電話で
- ※当日は京都桂病院小児科受診が必要です。

◎お問い合わせ連絡先
法人本部事務局 TEL (075) 392-2506（直通）



check

法人職員目安箱（投書箱）の案内について

法人職員皆さまからの職場での悩み事や苦情、ご意見等を受け付けています。携帯・スマートフォンでQRコードを読み取って発信してください。なお、投書は無記名でも結構ですが、連絡先、氏名等ご記入いただければお返事を致します。 法人本部事務局



京都桂看護専門学校

事業総括

令和3年度の学生数は、4月に学生募集を停止した為、2・3年生のみ70名でした。新型コロナウイルスの感染拡大に対し、学内の感染防止対策を徹底し対面授業の実施に努め、臨地実習は学内実習を工夫して教育活動の維持に努めました。卒業生は33名で、全員が看護師国家試験に合格し、32名が京都桂病院へ入職しました。

2021年度卒業式



重点項目

- 1 教育活動の維持と充実：学内の感染防止対策を徹底し対面授業を中心に実施し、また学内実習の工夫をして教育活動の維持に努めた。
- 2 学習環境の維持と整備：学内実習に使用する映像教材（DVD）の整備、設備老朽化による電気・水道設備の不具合の修繕対応を実施した。

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町46-14
TEL: (075) 381-0971 FAX: (075) 382-5445
URL: <http://www.katsura-nsc.net>
E-mail: katsura-nsc@nifty.com